トレンド予測を盛り込んだ花嫁衣裳の制作
― NDK ファッションショー出品作品の考察 ―

白坂　文

現在のブライダル業界は、少子高齢化や晩婚化、未婚率の増加などにより、ブライダルマーケット市場は縮小傾向にある。2020 年以降は新型コロナウィルスの流行により、結婚式のあり方にも変化が起き、従来の結婚式のスタイルや様式にとどまらない個性的なウエディングスタイルを選ぶカップルが出てきたりし、結婚式のスタイルが益々多種多様化していると言える。

また、晩婚化、再婚、ジェンダー婚等の影響で、花嫁衣裳についても従来のお姫様のような可愛らしいシルエットのドレスという概念から、もっと自分らしい、もっと自分を表現してくれるようなドレスを要望している花嫁も増加している。これらの理由から、トレンドを盛り込みつつ、従来の花嫁のエレガントな雰囲気は崩さずに、大人の格好良さを表現した花嫁衣裳をデザイン・制作し、NDK 創立 65 周年記念第 88 回ファッションショーに出品した作品の様子を考察し、報告する。

キーワード；ブライダル産業，少子高齢化，晩婚化，未婚率，花嫁衣裳

1．はじめに

まだ“ファッション”という言葉が一般的ではなかった 1959 年に、社団法人日本デザイン文化協会大阪支部として、一般社団法人 NDK 日本デザイン協会（以下、NDK）は産声をあげた。時代は戦後の混乱から抜け出し、洋裁学校が全国的に開校され、若い女性がこぞって洋裁を習い始めた時期でもあり、NDK が設立されて直後の 10 月第 1 回グランドフェスティバルショーの開催は、世間の注目を集め大成功を収めた。

NDK は、パリ・オートクチュールデザイナーであるジャック･グリフ氏（1961 年）や、ランバン技術責任者のジャック・サルファッティ氏（1966 年）、ニナ・リッチ技術責任者のビクトール・セオラ氏（1979 年）という、錚々たるメゾンの制作責任者を日本に招き、会員に特別専門技術講習会を開催することによって、ファッションの本場である、西欧の感性や技術を修得したり、1961 年より香港を皮切りに沖縄、シンガポール、ハワイ、パリ、ソ連（当時）などで NDK ファッションショーを開催するなど、“ジャパンファッション”の水準の高さを世界に知らしめ、NDK は我が国を代表するファッション団体に成長した [(1)]。

このように、“ジャパンファッション”の草分け的存在である、NDK の創立 65 周年記念第 88 回ファッションショー「輝く未来」が、2023 年 9 月 15 日芦屋モノリスに於いて開催された。晩婚化、再婚、ジェンダー婚等の影響から、従来のお姫様のような可愛らしいシルエットのドレスだけでなく、より自分らしい、より自分を表現してくれるようなドレスを要望している花嫁も増加していることから、著者がトレンドを盛り込みつつ、新しいイメージの花嫁衣裳を提案し、デザイン・制作してショーに出品した様子をここで報告

する。

2. コロナ禍を経たブライダル産業の現状

2020 年より流行し始めた新型コロナウィルス感染症拡大の影響により、ウエディングの会場が休館になるケースや、新郎新婦側からの申し出により、結婚式や披露宴の中止・キャンセルや延期など自粛するケースが相次ぎ、ブライダルに関連する施設を運営できずに倒産したり、婚礼関係のサービスがストップする会社が増えた [(2)]。

また、平成 25 年版厚生労働白書の「結婚の現状」では、少子化による若年者の減少、未婚率の上昇などを背景に、我が国の婚姻件数は減少傾向にある（図 1）。

大学進学率の上昇、独身者の意識変化などを背景に、結婚する年齢が高くなる晩婚化もともに進行している。日本人の平均初婚年齢は、2012（平成 24）年で、夫が 30.8 歳、妻が 29.2 歳となっており、1980（昭和 55）年（夫が 27.8 歳、妻が 25.2 歳）からの約 30 年間に、夫は 3.0 歳、妻は 4.0 歳、平均初婚年齢が上昇している。また、1950（昭和 25）年と比較すると、夫は 4.9 歳、妻は 6.2 歳、平均初婚年齢が上昇している（図 2）。

日本放送協会（NHK）が実施している世論調査「日本人の意識調査」によると、「人間は結婚するのが当たり前だ」という考え方への賛成は 2008（平成 20）年時点で約 35％となっており、結婚して一人前や、結婚するのが当たり前といったような社会的な圧力が弱まるとともに、結婚が家や親のためでもない個人を中心に据えたものへ変化する中で、結婚は人生の選択肢の一つとして捉えられるようになっており、結婚するかしないかについての自由度は高まっていると言える（図 3）[(3)]。

3. 花嫁衣裳の変遷と現在の海外トレンド

ウエディングドレスの歴史については、筆

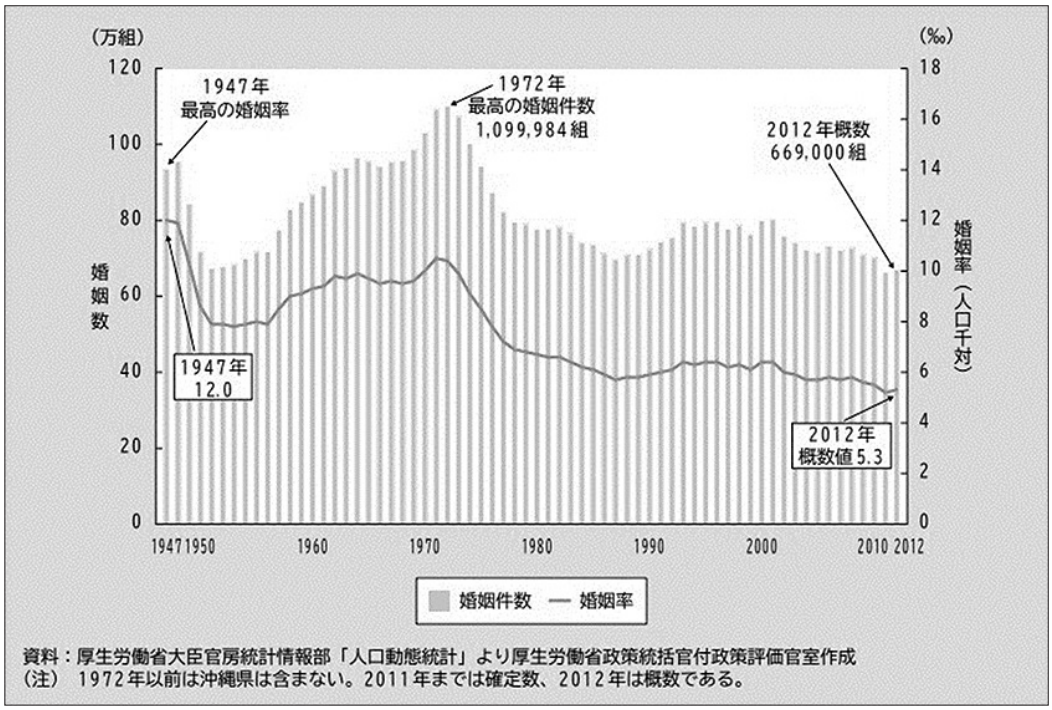
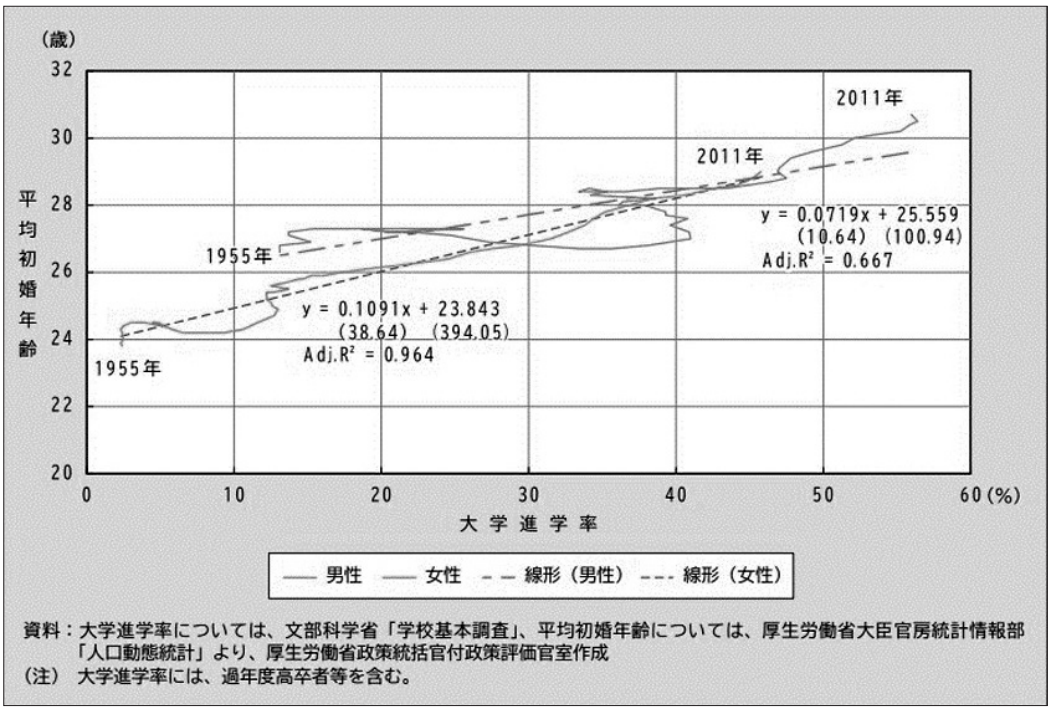
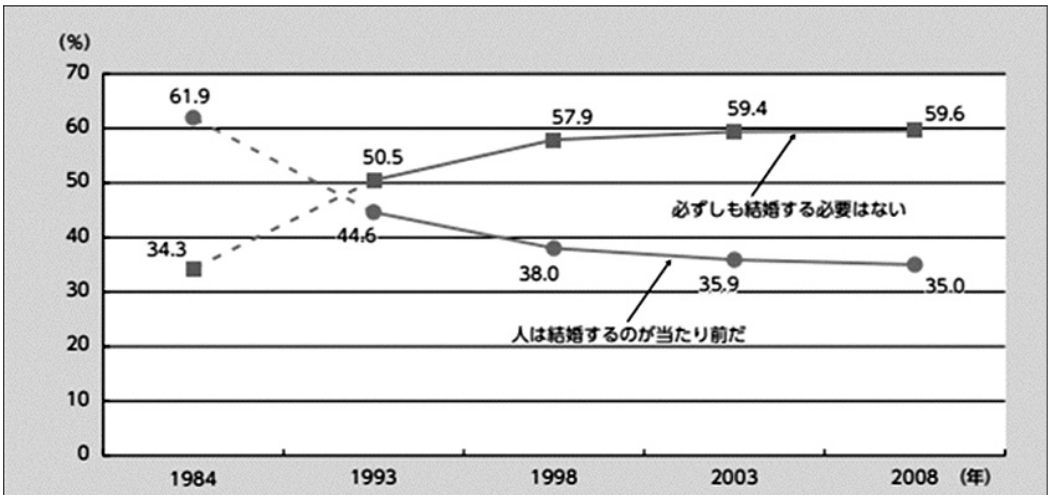


図 1　婚姻数及び婚姻率の年次推移



資料：大学進学率については、文部科学省「学校基本調査」、平均初婚年齢については、厚生労働省大臣官房統計情報部「人口動態統計」より、厚生労働省政策統括官付政策評価官室作成
（注）　大学進学率には、過年度高卒者等を含む。

図２　大学進学率と平均初婚年齢の関係



資料：1984年については、NHK「現代の家族調査」、1993～2008年までについては、NHK「日本人の意識調査」より、厚生労働省政策統括官付政策評価官室作成
（注）「現代家族調査」（1984年）と「日本人の意識調査」（1993～2008年）では、設問が異なるため、単純に比較することには注意が必要。
（設問）1.「現代の家族調査」：次に、リスト10には、結婚や家庭についてのいくつかの考え方がのっています。AからDまでのそれぞれについて、「そう思う」か「そう思わない」かお答えください。「A　人間は、結婚して、はじめて一人前となる」
2.「日本人の意識調査」：リストには、結婚についての考え方がのせてありますが、あなたのお考えは、甲と乙どちらに近いでしょうか。
（甲：人は結婚するのが当たり前だ、乙：必ずしも結婚する必要はない）

図３　結婚観の推移

写真１　2023 SS BBFW REPORT

者が神戸松陰女子学院大学教職支援センター年報第２号（2017年）で述べた[(4)]。

日本人のドレスの好みは、ゼクシィ「2024年最新ウエディングドレス＆カラードレス人気ランキング」によると、１位：Aライン（55.8%）、２位：プリンセスライン（25.4%）、３位：マーメイドライン（9.2%）、４位：スレンダーライン（5.2%）、５位：エンパイアライン（0.9%）という結果となっており、圧倒的にAラインとプリンセスラインの花嫁王道のスカートが広がる可愛らしいシルエットが人気であることが分かる[(5)]。

それと比較すると、2022年４月20日から５日間の日程で開催された、バルセロナ・ブライダル・ファッションウィークの2023年春夏BBFWレポートでは、シルエットがクリーンで、装飾はあるものの、シンプルなラインが注目され、カラーについてもウエディングドレス＝白という概念が壊され、黒や茶色のようなカラーのドレスや、グローブ、ネックアクセサリーにダークな色を取り入れているデザインがみられた（写真１）[(6)]。

海外のウエディングドレスのトレンドは、日本で好まれているドレスと比較すると、ドレス自体のボリュームが比較的抑えられ、エッジの効いた装飾が施されており、モード感あふれる色合いやデザインのドレスが増加してきていることが分かる。

写真２　ウエスタンブーツを履いたベール・ガール

4. 結婚式のトレンドをリードするセレブたち

アメリカを中心に活躍する女優、リリー・コリンズ（以下、リリー）が映画監督のチャーリー・マクダウェルと2021年９月４日挙式し、自身のインスタグラムで結婚を発表した。

挙式では、ラルフローレンのレトロなカスタムドレスに身を包み、バージンロードにはシックなカラフル・ラグを用い、ベールガールにウエスタンブーツを履かせるなど、カジュアルでカントリーな雰囲気漂うネイチャーウエディングの演出はリリー自身のアイデアで、ゲストは40人のみ、雄大な自然の中でのプライベートな結婚式は、リリーの希望を叶えたものとなり、リリーの個性が反映された内容となっている（写真２）[(7)]。

また、歌手のアリアナ・グランデ（以下、アリアナ）は、2021年５月15日、不動産エージェントのダルトン・ゴメスと結婚式を行った。

人気歌姫のウエディングは、カリフォルニア州にあるアリアナの自宅で行われ、ゲストも20人に満たないアットホームなもので、宗教的な儀式はない人前式であったことがインスタグラムで伝えられた。2020年３月のロックダウンをきっかけに、２人はアリアナの自宅で一緒に暮らすようになったという背景もあり、コロナ禍で関係が深まり一気に結

写真３　自宅で結婚式を行うアリアナ・グランデ

婚まで突き進んだ今ならではのスタイルといえる（写真3）[8]。

上述した2人のセレブの結婚式は、コロナ禍の最中であったという理由が大きいが、少人数で比較的カジュアルな結婚式を行っており、SNSで発表するというスタイルをとっている。

マイナビニュース（2022年11月　美花嫁図鑑farny編集部調べ）で「SNSでの結婚報告をどう思うか」というアンケートを取ったところ、「あり」との回答が89%、「なし」が11%という結果で、全体の8割以上がSNSでの結婚報告に対して肯定的であることがわかった（図4）[9]。

日本の芸能人もSNSで結婚報告をしているカップルが多く、カジュアルでシンプルで洒落た映え写真を投稿しており、結婚を控えたカップルのみならず、多くの人から反響を得ている。

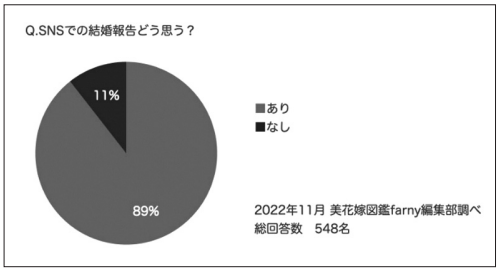


図４　SNSでの結婚報告をどう思うか

5. NDK創立65周年記念第88回ファッションショーに出品するドレスデザイン

上述したように、日本人のドレスの好みは花嫁の王道の可愛らしいシルエットであるが、海外よりトレンドの流れが来ることにより、今後は日本でもドレスのシルエットが比較的抑えられ、エッジの効いたデザインで花嫁の個性を表現できる、モード感溢れるデザインが人気となる可能性が大きい。

また、社会的な背景として晩婚化、再婚の増加、ジェンダー婚の出現等の影響を考えると、結婚式を挙げる花嫁の年齢や、好みのドレスのデザインについても多様化していると考えられる。花嫁の求める上品でエレガントな雰囲気は崩さずに、比較的年齢層の高い花嫁でも気恥ずかしさがなく着装することができる、大人の格好良さを表現した花嫁衣裳をデザイン・制作した。

パンツスタイルのオールインワンは独特の光沢とハリ、しっとりとした重厚感が魅力のミカドシルクを使用し、最高峰の素材で存在感を表現した。ネックラインはノーカラーで、開きすぎず、ややボートネックとなっており、花嫁のネックラインの美しさがより一層アピールできるようなカッティングとなっている。バックスタイルでは、フロントスタイルからは想像できない深いV開きとなっているところが女性ならではの魅力を表現し、意外性も表現した。

オールインワンのウエスト部分は、羽織としてオーバードレスを着装する想定であることから、しっかりとウエストはシェイプさせた。パンツ部分のシルエットはストレートラインから、膝下はやや細くなるテーパードラインとなっており、ニーラインを上げて花嫁の膝下が長く美しく見えるボリューム感とシルエットにした。

写真 4、5　NDK ファッションショーでのランウェイの様子

写真 6、7　NDK ファッションショーでのランウェイの様子

オーバードレスの素材はシルクオーガンジーとし、衿のデザインはテーラードカラーで大人の雰囲気を演出し、一方で袖は袖付け線を下げ、ギャザーをたっぷりと入れたボリューミーなロングスリーブで可愛らしさを演出した。オーバードレスでは大人と可愛さのギャップがポイントとなっている。また、ロングカフスにはビジューを刺繍したゴージャスなレース生地を配し、くるみボタンを付けた。スカートのヘムラインは床すれすれのトレーンとし、ウエスト部分にはオールインワンの同素材であるミカドシルクのベルトを付けた。また、オーバードレスの布端にはミカドシルクのパイピングを制作し、テーラードカラーの布端から身頃の前立て、スカート部分からトレーン部分まで全てを包んだ。オーバードレスの肩部分にはショート丈のケープを付け、ここにもビジューを刺繍したレース生地を付け、華やかさを表現した（写真4、5、6、7）。

6. 制作ドレスについての評価

今回制作したウエディングドレスは、NDK創立65周年記念第88回ファッションショーに出品したが、実際に結婚・披露宴の場ではどのような感想を持たれるのか、ザ・ヒルサイド神戸*のウエディングプランナー様に実際にドレスをご覧いただき、講評いただいた。

「王道のAラインウエディングドレスという概念を払い、現在のトレンドを掴んだお衣装でした。3WAYとなる為、1着だけど自身のなりたいスタイルに変えられるところも自分らしさを大切にしている現在のスタイルととてもマッチしています。自分らしさを表現しつつも、いつもの自分よりワンランク上を目指せる、良質な部分は残しつつ遊び心が入っているところが花嫁心を擽られました。」

（足立奈穂様）

「トレンドを追いかけながらも、今までにない個性的なパンツスタイルでレトロモダンな会場との相性が良いお衣裳だと感じました。可愛いさだけを求めるのではなく、スタイリッシュでかっこいい美を追求したデザインが印象的です。レースに繊細な刺繍のデザイン、トレーンとドレスを掛け合わせたスタイルも珍しく、人と被らない新しいウエディングを求める花嫁にぴったりのお衣裳です。

（小島　汀様）

7. まとめ

上述したように、新型コロナウィルス感染拡大という予想もつかない突発的な出来事に加え、未婚率や晩婚率の上昇、結婚に対する意識の変化がウエディング業界全体に大きな影響を及ぼし、コロナ禍を経たブライダル産業の現状が非常に厳しい状況となっていることは確かである。この期間に結婚を決めたカップルは、自分たちにとって何が本当に必要なことで、何が本当に大切なのかということを見つめなおした。

結婚式のスタイルはコロナ禍以前より、より一層多種多様化しており、自由度が増していることから、花嫁衣装に関しても、もっと選択肢が広がり、花嫁の個性を表現できるようになることを祈り、今後の日本のウエディングドレスのトレンドを予測しながら新しいタイプの花嫁衣裳をデザイン・制作していきたいと考える。

謝辞

本作品に際して、貴重なご意見をいただきました、ザ・ヒルサイド神戸のウエディングプランナー足立奈穂様、小島汀様には心より感謝申し上げます。

*安藤忠雄建築の結婚式場　神戸市灘区六甲台町

文献

(1) NDK 65周年記念第88回NDK Fashion Show―輝く未来―パンフレットより抜粋
(2) ブライダル業界の現状と今後の未来はどうなっていく？
https://bridal-biz.jp/column/111669/
(2023年10月10日アクセス済)
(3) 平成25年版厚生労働白書（抜粋）
https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/meeting/taskforce_2nd/t_1/pdf/ref1-1.pdf
(2023年10月10日アクセス済)
(4) 白坂文（2017)「ファッションショー観覧を通してみる被服構成実習への教育効果」神戸松蔭女子学院大学教職支援センター年報第2号 p43-50
(5) ゼクシィ2024年最新ウエディングドレス＆カラードレス人気ランキング
https://zexy.net/article/app000101363/
(2023年10月10日アクセス済)
(6) ELLE「モードな花嫁必見！ 2023ブライダルコレクションから最新ドレストレンドをマーク」
https://www.elle.com/jp/wedding/wedding-dresses-kimonos/a40183271/bbfw-report-2206/
(2023年10月10日アクセス済)
(7) ELLE「まるでおとぎ話のヒロイン　リリー・コリンズの極秘婚を覗き見」
https://www.elle.com/jp/wedding/wedding-celebrity/a40778060/lily-collins-wedding-22-0816/
(2023年10月10日アクセス済)
(8) SPUR.JP「華やかな結婚式が復活！海外セレブの最新ウェディング事情をキャッチ」
https://spur.hpplus.jp/wedding/topics/2022-05-20-OAh2BlI/
(2023年10月10日アクセス済)
(9) マイナビニュース「SNSでの結婚報告は「アリ」派が約9割―使用したのはダントツであのSNS」
https://news.mynavi.jp/article/20221129-2524494/
(2023年10月10日アクセス済)

Creating a Wedding Dress that Reflects the Latest Trends
― Consideration of the Works Exhibited at the NDK Fashion Show ―

Aya SHIRASAKA
Osaka Yuhigaokagakuen College

Abstract

The current bridal industry is experiencing a shrinking market due to factors such as a declining birth rate, an aging population, an increase in late marriages, and a rising unmarried rate. Since 2020, the COVID-19 pandemic has brought changes to the way weddings are conducted. Couples are increasingly opting for unique wedding styles that go beyond traditional wedding norms, leading to a greater diversity in wedding styles.

Additionally, influences like delayed marriages, remarriages, and gender-inclusive weddings have shifted the concept of bridal gowns away from the traditional princess-like silhouette to dresses that allow brides to express themselves more authentically. For these reasons, we designed and produced bridal gowns that incorporate trends while preserving the bride's elegant aura, showcasing the sophistication of adult brides. We presented these gowns at the 88th edition of NDK's 65th-anniversary fashion show.

Keywords；bridal industry, declining birth rate, an aging population, late marriages, unmarried rate, bridal gowns